国土交通省 北陸地方整備局
神通川水系砂防事務所

記者発表資料取り扱い
令和元年１０月２５日 解　　禁

土砂災害対策の重要性について地域とともに考える！

- 『土砂災害から飛越地域を守り「安全・安心と発展」を考える 』講演会や地元小学校による防災学習発表などを開催します。
- 砂防施設を見学し、その役割、働きを学習する現地見学を実施します。

○ 神通川流域では、明治後期から県によって砂防事業が始まり、その後、国により高原川流域を中心に直轄砂防事業を展開し、現在に至っています。

○ 神通川は、活発な活火山と脆弱な地質を抱えた急流荒廃河川であるため、土砂災害を防止するための砂防施設整備などのハード対策を着実に進める必要があります。

○ 近年、異常気象の発生に伴い、全国各地で土砂災害が頻発しており、ハード対策に加え、早期の避難などソフト対策が従前にもまして重要となっています。

○ 『令和』という新たな時代を迎えるにあたり、神通川流域の安全・安心や地域の発展、土砂災害対策の重要性などについて地域とともに考え、未来に繋げる機会を設けることにより、地域住民のより一層の防災意識の高揚を図ります。

登録有形文化財の
日影第１号砂防堰堤

頻発する土砂災害
昭和 54 年の洞谷災害

日時：令和元年１１月２４日（日）　９：００～
場所：平成の芝居小屋　船津座
　　岐阜県飛騨市神岡町船津 1130-1

※詳細は、別添チラシをご覧ください。

資料配付先
高山記者クラブ 建通新聞社

○問い合わせ先
北陸地方整備局　神通川水系砂防事務所
TEL　0578－82－1220（代表）
副所長(技術)　渡邊　剛　（わたなべ　つよし）（内線 204）
調査課長　　岡田　武（おかだ　たけし）（内線 351）
〒506-1121　岐阜県飛騨市神岡町殿 1020-4
http://www.hrr.mlit.go.jp/jintsu/

土砂災害から飛越地域を守り「安全・安心と発展」を考える

～明治 大正 昭和 平成 そして 令和へ～

プログラム

■ 開会 9:00

■ 事業報告 9:25

国土交通省北陸地方整備局
神通川水系砂防事務所長　**浅井誠二**

■ 基調講演 9:40

土砂災害の実態と対策

国土交通省
水管理・国土保全局 砂防部
砂防計画課長　**三上幸三**

■ 講演 10:30

飛騨の砂守

写真家　中田聡一郎 氏

■ 地元小学校による学習発表 11:00

「高山市立栃尾小学校」
「飛騨市立神岡小学校」

■ 閉会 12:00

同日開催　13:00~16:15　小雨決行　参加費無料

土砂災害から飛越地域を守り、「安全・安心と発展」を考えるツアー

参加者にSABOカードプレゼント!

事前応募必要／20名様
※応募多数の場合は抽選となります。

日時　令和元年 11月24日 日　9:00～12:00（8:30開場）

会場　平成の芝居小屋 船津座
岐阜県飛騨市神岡町船津1130-1

■主催／土砂災害から飛越地域を守り、「安全・安心と発展」を考える実行委員会
（高山市、飛騨市、岐阜県、富山県、NPO法人 神通砂防、NPO法人 神岡・まちづくりネットワーク、神通川水系砂防事務所）

■後援／一般社団法人 全国治水砂防協会、神岡商工会議所、高山北商工会、飛騨山脈ジオパーク推進協議会、神岡鉱業株式会社、たから流路工管理協議会、平湯川砂防樹林帯管理協議会、新穂高渓流保全工整備促進協力会、立山・神通砂防スペシャルエンジニア、一般社団法人 斜面防災対策技術協会富山支部、一般社団法人 吉城建設業協会、一般社団法人 富山県建設業協会、富山県治水砂防協会、NPO法人 富山県砂防ボランティア協会、岐阜県砂防協会、岐阜県砂防ボランティア協会（順不同）

■お問い合わせ／神通川水系砂防事務所 総務課　TEL.0578-82-1220

入場無料

開催趣旨

神通川流域では、明治後期から県によって砂防事業が始まり、その後、国により高原川流域を中心に直轄砂防事業を展開し、現在に至っています。

神通川は、活発な活火山と脆弱な地質を抱えた北アルプスから一気に流れ下る急流荒廃河川であるため、土砂災害を防止するための砂防施設整備などのハード対策を着実に進める必要があります。

一方、近年、異常気象の発生に伴い、全国各地で土砂災害が頻発しており、ハード対策に加え、土砂災害警戒区域等の指定や土砂災害警戒情報等に基づく早期の避難などソフト対策が従前にもまして重要となっています。

『令和』という新たな時代を迎えるにあたり、今一度、神通川流域の安全・安心や地域の発展、土砂災害対策の重要性などについて地域とともに考え、そして、未来に繋げる機会とすることを目的に開催するものです。

講演

写真家 中田聡一郎（なかたそういちろう） 氏

PROFILE■1965年岐阜県飛騨市神岡町に生まれる。工学院大学建築学科卒業。中野区役所建築課主事を経て写真家として独立。

作品集

「奥飛騨の鉱山」（海拓舎）
「飛騨の砂守」（河出書房新社）
「星のしゃぼう」（河出書房新社）
「風景の島JAPAN」（河出書房新社）
「12月の薔薇」（芸術新舎）

さがみはら写真新人奨励賞受賞

“暮らしを守る砂防”写真・絵手紙コンテスト審査委員
砂防関係事業に係わる景観形成のあり方検討委員会委員

「砂守（すなもり）」とは

砂守とは、2004年に中田 聡一郎氏が編み出した造語で、「自然を力でねじ伏せるのではなく、忍耐強く見守り、ギリギリまで自然と共存の接点を探った。私は彼らを尊敬と感謝を込め「飛騨の砂守」と呼びたい。」と著書にあります。家や道路などを壊し、人の命を奪う恐ろしい土砂災害から人命・財産を守るための事業を「砂防」としていることから、その工事に携わる人々や砂防施設を含めて「砂守」と呼んでいます。

学習発表

高山市立栃尾小学校

栃尾小学校では、雨量観測やすべり台を利用した土石流の流れ方の実験を通じて土砂災害の起こりやすさについて学習しました。また、洞谷災害について洞谷流路工を見学し、被害の状況やその時の気持ちを聞くことにより、土砂災害の恐ろしさについて学習しました。

飛騨市立神岡小学校

神岡小学校では、危険箇所（渓流、ガケなど）と自分たちの住む地区を守る施設との位置関係を確認し、土砂災害が発生したときの避難場所や避難情報についてハザードマップなどを用いて学習し、災害時に自分たちができること、自分たちの命を守る行動について考えました。

令和元年11月24日（日）

小雨決行

土砂災害から飛越地域を守り、「安全・安心と発展」を考えるツアー

周辺の砂防施設を見学し、その役割、働きを学習するツアーです。

13:00	集合（宙ドーム）、オリエンテーション（15分）
	◉六郎谷（登録有形文化財砂防堰堤）
	◉洞谷（昭和54年の災害からの復興）
	◉たから流路工（自然石を利用した砂防施設）
	◉地獄平砂防堰堤
	◉奥飛騨さぼう塾（「見て、ふれて学べる」施設）
16:15	宙ドーム、解散

会場周辺図

「安全・安心と発展」を考えるツアー　参加申込書

小雨決行　申込期限：2019年10月25日必着

■FAXまたはインターネットにて申し込みください。※応募者多数の場合は抽選となります。
申込日：2019年　　月　　日

■インターネットでの申込は下記URLから
https://www.goiken-toyama.com/jinzu

ふりがな			参加人数	人（参加者構成：大人　　人・子供　　人）※小学生以下
代表者名		男・女	電話番号	
現住所	〒		電子メール	

FAX 0578-82-2461

問い合わせ 神通川水系砂防事務所総務課　TEL 0578-82-1220

ご記入いただいた個人情報は、本企画の開催・運営およびそれに関する業務にのみ利用いたします。